

作戰ニ參加シ各地轉戦中五月十七日頃ヨリ悪感戰慄發熱アリテ全身倦怠  
食思不振等ヲ訴ヘタルニ依リ受診ス

本患ノ原因ヲ探究スルニ血族的ニ何等徴スバキ疾患ナク生來者患ヲ識ラズニ  
際時身体検査ニモ異狀ヲ認メズ入隊後健全ニテ諸種ノ勤務ヲ精勵ス今  
次作戰ニ參加スルヤ作戰行動ハ三月ノ長期ニ亘リ敗敵ヲ急追シ之ヲ猛進擊或  
ハ連日連夜ノ強行軍ヲ實施ス等戰況ノ急速ナル進歩ニ伴ヒ繁劇ヲ極メ加フルニ  
四五月頃ノ炎熱著シク体カヲ消耗シ睡眠不足ヲ招キ疲勞其ノ極ニ達ス  
然リト雖モ作戰ノ要求ニ基キ休養ハ望ムコトナク給養亦追送品ノ補給困難  
ヲ致シ食延ノ連續ニシテ代用食ノ入手ニ困難ナク状況ノ上給水意ノ如クナリ被  
服破損スルモ補修ノ暇ナク數回ニ亘リ豪雨ハ道路ヲ破壊シ泥濘化スルト共ニ  
被服ハ濕潤ニテ行動ヲ著シク阻害シ疲勞蓄積セル身体弱カシモ過勞ニ  
陥リテ諸病ヲ并ニ抵抗カヲ減退セルニ遂ニ本病ヲ誘發セルメタルモノニシテ之  
興ニ公營ニ起因スルモノト認ム

昭和十九年五月二十日  
大隊長 佐野 虎  
痛井 哲之院

本籍地  
現住地

第六十四師之步兵第十一隊 陸軍上等大 武田敏雄

一 病 年 月 日  
二 發 病 場 所  
三 發 病 原因  
四 經過

本患は昭和十九年五月二十日、行軍中、更寒感發熱アリテ行  
動ヲ続行シテ在隊中セリ。翌日、頭痛、全身倦怠、食思不振等  
ヲ發シ、入隊後、健全ニテ諸種ノ勤務ヲ精勵ス。今、次作戰ニ  
參加スルヤ、作戰行動ハ三月ノ長期ニ亘リ敗敵ヲ急追シ、之ヲ  
猛進擊或ハ連日連夜ノ強行軍ヲ實施ス等戰況ノ急速ナル進歩  
ニ伴ヒ繁劇ヲ極メ加フルニ、四五月頃ノ炎熱著シク体カヲ消耗  
シ睡眠不足ヲ招キ疲勞其ノ極ニ達ス。然リト雖モ作戰ノ要求  
ニ基キ休養ハ望ムコトナク給養亦追送品ノ補給困難ヲ致シ食  
延ノ連續ニシテ代用食ノ入手ニ困難ナク状況ノ上給水意ノ如ク  
ナリ被服破損スルモ補修ノ暇ナク數回ニ亘リ豪雨ハ道路ヲ破壊  
シ泥濘化スルト共ニ被服ハ濕潤ニテ行動ヲ著シク阻害シ疲勞蓄  
積セル身体弱カシモ過勞ニ陥リテ諸病ヲ并ニ抵抗カヲ減退セル  
ニ遂ニ本病ヲ誘發セルメタルモノニシテ之興ニ公營ニ起因スル  
モノト認ム

版... 昭和十九年六月二十六日

昭和十九年六月二十六日

右... 候也

昭和十九年六月二十六日 北支那方面軍第一兵站病院 陸軍軍醫中尉 本田康雄

本籍地 現住所

第六十三師團獨立歩兵第十一大隊第二中隊

昭和八年徵集補役陸軍二等兵 武田敏雄

一病名 肺結核兼結核性腹膜炎

一決定年月日 昭和十九年六月二十四日

一公務起因理由 本症は別紙事實証明書記載如く発病は昭和五年二十日

右證明書 本症は別紙事實証明書記載如く発病は昭和五年二十日

昭和十九年六月二十四日 陸軍軍醫中尉 本郷原文雄

昭和十九年六月二十四日 陸軍軍醫中尉 本郷原文雄







諸給與金證明書



本籍地  
現住所



所属部隊第六師團獨立步兵第一大隊第二中隊

官氏名 陸軍上等兵 武田敏雄

右者對昭和十一年一月三日陸軍省告示第二號大東亞  
戰役ニ係ル死歿者特別賜金賜與規定第二條第三項ノ  
諸給與金ハ支給シテ下ラ證明ス

昭和十九年六月二十六日

獨立步兵第一大隊長 陸軍中佐

福井哲亮



付	部	任主	官職高	長級	長級	長級
水村						

		五	事發現 證明書
		四	病癒書
		四	證明書
		六	死亡 證明書
		二	請給與金 證明書
		独立第十大隊	所屬部隊
		戰犯	三亡別
		陸上	官
		武田敏雄	氏名

后師副人恩第...號  
 恩賞關係書類送付件通牒  
 昭和二十年三月六日 第六十二師團司令部  
 京都聯隊區司令部 御中  
 左記者ニ對スル首題件別紙通送付ス  
 左記

付	部	任主	官副級高	長謀參	位國即
①	②	③	④	⑤	⑥

		二	專實現 證明書					
		四	病歷書					
		四	證明書					
		六	死亡 證明書					
		一	請給與金 證明書					
			所屬部隊	第六十二師團	野戰病院			
			死亡別	戰傷				
			官	陸				
			氏名	丸山清市				

石師副人恩第七九號  
 恩賞關係書類送付件通牒  
 昭和二十年三月七日 第六十二師團司令部  
 新瀉縣隊區司令部 御中  
 左記者ニ對スル首題件別紙通送付ス  
 左記

付	部	任主	官副級高	長謀參	位國即
①	②	③	④	⑤	⑥

		二	專實現 證明書					
		四	病歷書					
		四	證明書					
		六	死亡 證明書					
		一	請給與金 證明書					
			所屬部隊	第六十二師團	野戰病院			
			死亡別	戰傷				
			官	陸				
			氏名	池田延雄				

石師副人恩第七九號  
 恩賞關係書類送付件通牒  
 昭和二十年三月六日 第六十二師團司令部  
 新瀉縣隊區司令部 御中  
 左記者ニ對スル首題件別紙通送付ス  
 左記

姓名	張國柱						
籍貫	山東						
現住地	山東						
職業	軍人						
服務機關	第六十二師團司令部						
服務時間	自二十九年七月四日起						
服務地點	山東						
服務內容	勤務						

事實證明書  
 第六十二師團司令部  
 張國柱  
 山東  
 現住地  
 山東



本籍地  
現住所

第六十二師團野戰病院

昭和八年徵集陸軍衛生隊兵丸山清市

丙地港灣出發年月日 昭和十八年十月十四日(博多港)

戰地到著年月日 昭和十九年四月 五日(山海關)

勤務概要

自昭和十八年十月十八日至昭和十九年三月九日

滿洲國東滿總省綏陽縣三在國境警備

京漢作戰參加

河南中部地區警備

自昭和十九年六月三十日至昭和十九年七月一日

河南中部地區警備

自昭和十九年七月四日至昭和十九年七月四日

中華民國內南省郊縣

發病年月日  
發病場所  
發病狀況



昭和十八年十月十八日以來滿洲國東滿總省綏陽縣ニ在リテ國境警備  
ニ從事シテリシガ昭和十九年三月九日第六十二師團野戰病院ハ轉  
屬爲屯營出發長途列車輸送ニ依リ三月十四日中華民國內西省  
榆次ニ到着シ野戰病院ニ編入セラレ次期作戰ヲ目前ニ控ヘ猛烈十  
ル教育訓練ヲ受クルト共ニ同地附近ノ警備或ハ作戰準備ノ爲ノ  
諸種ノ勤務ニ服シ四月一月以來京漢作戰ニ參加連日ニ亘ル繁激  
ナル作戰行動或ハ患者ノ收容後送ニ廣莫タル平野ヲ峻嶮ナル  
山岳ヲ踏破シ凡ル困苦缺乏ニ堪ヘ克ク其ノ本分ヲ完シ作戰終了ス  
ル河南省知縣ニ野戰病院要員トシテ晝夜ヲ徹スル衛生業務  
ニ從事中、處七月四日夕刻ヨリ發熱頭痛眩暈アリタリ翌五日  
到ルヤ前記症狀増悪シ食思不振全身ノ倦怠等アリタルヲ以  
ツテ速ニ受診入院セシム

右原因ヲ探究スルニ本人公生來健ニシテ著患ナク又血族的關係  
ニモ認ムベキ事項ナク旺盛ナル士氣ノ下ニ今次作戰ニ參加セルモ  
ノニシテ日夜ヲ通シテノ不眠不休ノ猛進擊或ハ峻嶮ナル山岳地  
帶ノ行動等ニ依ル身體疲勞ノ蓄積及行動間扇營地ニ於  
ケル非衛生的環境知縣野戰病院開設時ニ於ケル繁激ナル衛  
生業務並ニ氣候風土ノ激變等ノ感作ニ依リ發病セルモノニシ  
テ眞ニ公務ニ起因セルモノト認ム

右證明ス

昭和十九年七月五日

第六十二師團野戰病院院長陸軍軍醫佐熊倉



昭和十八年十月十日入病室 昭和十九年七月四日退院

昭和十八年十月十日入病室 昭和十九年七月四日退院  
病歴書

第六十二師團野戰醫院 陸軍醫務所 兼 倉 庫

昭和十八年十月十日

本籍地 現住所

本籍地 現住所  
第六十二師團野戰醫院  
陸軍醫務所 兼 倉 庫  
昭和十八年十月十日

病歴書

本籍地 現住所

第六十二師團野戰醫院

昭和十八年徵集 陸軍衛生上等兵丸山清市

一病 名 脚氣(衝心性)兼感冒

二發病年月日 昭和十九年七月四日

三發病場所 中華民國河南省 鄭縣

四原因 別紙事實證明書記載ノ如シ

五經過

昭和十九年七月四日夕刻ヨリ發熱、頭痛、眩暈アリタルモ業務繁  
忙ニシテ休養スルコトナク服務シテリシガ翌五日ニ至ルヤ前記症狀  
次第ニ増悪シ食思不振、全身倦怠等アルヲ以テ受診第六十二師  
團野戰病院第二部ニ入院ス。入院時體温三八五度、脈搏九十至  
整實ス、顔貌稍々熱性不關狀ニシテ頰部紅潮ス、咽頭粘膜發赤

舌白苔ヲ衣シ胸部心界正常第二肺動脈音亢進ス打診  
上臍常ヲ認メザルモ呼吸音一般ニ粗ニシテ咳嗽アリ腹部柔軟  
平坦ニシテ肝脾ヲ觸レズ蓋健反射消退セルモ下腿ノ浮腫ヲ  
認メズ至トシテ頭痛ヲ訴フモ收容上ノ都合ニ依リ七月六日許昌  
第一四〇兵站病院ニ轉送セラレ七月八日北支那方面軍第一兵站病  
院ニ轉入ス當時體温三八〇度脈搏七五至體格中等度榮養衰  
ハ顔貌憔悴稍々浮腫狀ニシテ舌乾燥シ白苔ヲ衣ス心界正常  
第二肺動脈音亢進ス眼球結膜充血ス腹部平坦柔軟壓痛  
アリ七月十日二十時頃ヨリ急心悸亢進シ胸内苦悶感強ク床上  
ニ呻吟スルニ至ル意識明瞭ナレトモ顔面蒼白ニシテ冷汗ヲ發シ  
顔貌甚ク苦悶狀ニシテ轉展反側シ呼吸促進シ脈搏一二〇至整  
細少ナリ口唇指趾等ニチアノーゼ現レ悪心嘔吐アリ胸部ハ心臟部  
ニ強キ搏動ヲ認メ心濁音界左右ニ擴大シ特ニ右側ニ於テ著明  
右胸骨緣ヨリ約ニ横指半右ニ擴張シアリ第一音ハ不純ニシテ  
延長シアリ第二音ハ弱シ

ストリキニーネ一〇〇耗塩酸ロベリン一〇〇耗 ビタカンファー一三〇耗ヲ  
皮下注射スルト共ニビタミンBノ液五〇耗ノ静脈内注射ヲ行  
ヒ一〇〇耗ノ瀉血ヲ行ヒタルニ苦悶感稍々輕快シタルモ全身症狀  
ハ重篤ニシテ樂觀ヲ許サザルヲ以テ二十時三十分第一報ヲ發  
ス。二十三時ビタミンBノ液五〇耗 ビタカンファー一〇〇耗ノ静脈  
内注射ヲ行ヒ其ノ後毎三十分ビタミンBノ液五〇耗 ビタカンフ  
アー一〇〇耗ノ静脈内注射ヲ十サシメ綿密ナル監視ノ下ニ  
病勢ヲ監察シテアリシガ翌十一日十九時頃ヨリ再ニ苦悶感  
激シ心悸亢進著シ脈搏約一五〇ヲ算シ細少微弱ニシテ頻  
數ナリ顔面冷汗甚ク口腔羅音生ズ依ツテビタミンBノ液  
並ニ強心劑ノ静脈内注射ヲ十シ瀉血ヲ行フモ病勢ハ漸次増  
悪シ二十二時ニ至ルヤ意識濁濁ヲ來シ聲音嘶嘎シ呼吸  
ハ淺在性トナリ四肢次第ニ厥冷シ口唇及四肢末端ニチアノーゼ  
著シ依ツテ前記症狀並ニ臨床所見ニ基キ同日病名ヲ脚氣

(衝心性)兼感冒ニ決定シ引續キ「ヒタカラア」五、ワ既安十  
カ液ニ「口」既ノ皮下注射ヲ行ヒタルモ殆ド効ナク翌十二日二時  
三十分頃ニハ脈搏益々不良ニシテ殆ド猶知シ得ズ危篤ノ状態  
ヲ呈スルヲ以テ第一ニ報ヲ發シ專心看護ニ努メタルモ其効空シク  
呼吸ハ漸次「シヤイネスト」ク氏型ヲ呈シ三時十分意識不明トナ  
リ角膜反射消失瞳孔散大ニ遂ニ鬼籍ニ入ル  
右ノ通ニ候也

昭和十九年七月十一日

北支那方面軍第... 附陸軍軍醫少尉 大河内 寛

證明書

本籍地  
現住所

第六十二師團野戰病院  
昭和八年徵集 陸軍衛生一等兵 丸山清 市

一病名 脚氣(衝心性)兼感冒

一決定年月日 昭和十七年七月十一日

一公務起理由 別紙所屬部隊長調製事實證明書  
タル理由 勤務ニ依リ發病セルモト認ム

右證明ス

昭和十九年七月十日

北支那方面軍第一兵站病院長 陸軍軍醫少佐 永嶋成春

